

2007年5月実施「現状と将来目標に関するアンケート調査」の結果について

2007年7月21日
農業施設学会研究推進委員会

農業施設学会の今後の活動の参考とするため、学会員を対象に2007年5月17日から5月30日までの期間、Web上でアンケート調査を実施した。回答者総数は136名(会員数424名、回答率32.1%)であった。

1. 回答者種別

回答者の種別は以下の通り。

表 1-1 会員種類

	回答数	比率
正会員	122	89.71%
学生会員	14	10.29%
名誉会員	0	0.00%

表 1-2 所属

	回答数	比率
大学・学校関係(学生会員含む)	64	47.06%
国公立機関・独立行政法人関係(研究, 行政)	55	40.44%
企業, 団体関係	12	8.82%
その他	5	3.68%

表 1-3 年齢

	回答数	比率
20歳代	14	10.29%
30歳代	41	30.15%
40歳代	29	21.32%
50歳代	38	27.94%
60歳以上	14	10.29%

回答者の9割近くは正会員であり、所属は大学・学校関係と国公立機関・独立行政法人関係が4割強であった。年齢は30代から50代が各2割から3割程度であった。したがって本アンケートの結果は、学校および研究機関に勤める30代から50代の正会員のおおよその意見を抽出していることになる。

2. 所属学会

回答者の所属学会および母体は以下の通り。

表 2-1 問 1 農業施設学会以外の所属学会（現時点，国内に限る，複数選択可）

	回答数	比率
回答なし	18	13.24%
日本農業気象学会	14	10.29%
農業機械学会	73	53.68%
生態工学会	6	4.41%
農業情報学会	8	5.88%
日本生物環境工学会	18	13.24%
その他主要な学会	78	57.35%

表 2-2 問 2 主として活動されている学会（一つだけお選びください）

	回答数	比率
農業施設学会	61	44.85%
日本農業気象学会	2	1.47%
農業機械学会	33	24.26%
生態工学会	1	0.74%
農業情報学会	0	0.00%
日本生物環境工学会	4	2.94%
特になし	13	9.56%
その他	22	16.18%

回答者の 5 割強は農業機械学会に所属していた。生物環境工学関連学会以外の主要学会としては，食品系の学会（食品科学工学会；18，食品工学会；10），農業工学系の学会（農作業学会；15，農業土木学会；7），畜産系の学会（畜産学会；9，家畜管理学会；7）が多かった。主として活動する学会としては，農業施設学会が 5 割弱であった。また，回答者の 1/4 は農業機械学会が活動の母体であった。

3. 学会の研究対象について

表 3-1 農業施設学会の研究対象

項目	回答数	比率
貯蔵・加工施設	98	72.06%
糞尿処理利用施設	95	69.85%
園芸施設の環境制御	94	69.12%
乾燥調製(貯蔵)施設	92	67.65%
計測・検査技術など(センサー・非破壊検査)	91	66.91%
施設栽培団地	89	65.44%
選果包装施設	88	64.71%
園芸施設の構造	88	64.71%
育苗施設	85	62.50%
予冷施設	84	61.76%
養牛施設	84	61.76%
畜産施設の設計技術	83	61.03%
機械化農業共同利用施設	83	61.03%
養鶏施設	82	60.29%
米麦倉庫	82	60.29%
精米施設	81	59.56%
エネルギーの開発技術など(自然エネルギー・バイオマスエネルギー)	81	59.56%
品質管理技術	79	58.09%
養豚施設	79	58.09%
関連施設・設備と資材など(貯蔵輸送・包装資材・鮮度保持)	79	58.09%
工場的栽培施設	78	57.35%
コンピューターの利用技術など(計測と制御・農業情報・画像処理)	73	53.68%
排水・廃棄物処理技術	71	52.21%
無土壌栽培装置	63	46.32%
殺菌技術	62	45.59%
発酵技術	61	44.85%
養蚕施設	59	43.38%
衛生管理技術	59	43.38%
新素材の利用技術など(太陽電池・包装資材・生分解性プラスチック)	58	42.65%
食肉処理施設	57	41.91%
林産施設など(菌茸類栽培・パーク堆肥・パークペレット)	57	41.91%
作業環境の改善と公害防止技術	56	41.18%
種子センター	52	38.24%
バイオテクノロジー関連技術など(植物関連・動物関連)	46	33.82%
調理技術	20	14.71%
回答なし	1	0.74%

研究対象としては伝統的な農業施設に関する項目が多く選択されており、続いての質問である「特にふさわしいと考える項目」についても農業施設関連の項目が多かった。また、「学会の範囲は対象で規定すべきではなく、理念で規定すべき」「学際領域が曖昧な今、これと絞らず関連する物は何でも取り込むべき」もともと対象が幅広いので、

今後もさらに広げればよい」等の意見も多数あった。

(参考) 問 4 「農業施設学会の研究対象」として特にふさわしいと考える項目を自由にご記入ください(任意, 上記項目も可)

- 「建物を伴う農業生産・流通の場」である農業施設に関する諸問題を工学的手法によって研究し、合理的な農業施設の設計を可能にする(「新農業施設学」朝倉書店より抜粋) 学理的、実用的な研究分野
- エネルギーの開発技術など
- グリーンハウスの構造、設計、環境制御、ハウス内の装置類
- コンピュータおよびエネルギーの利用・開発技術
- バイオマス利用技術
- ビニルハウス
- ポストハーベストに係わるすべて
- 衛生管理技術、計測・検査技術など(センサー・非破壊検査)
- 温室、園芸施設での環境(温度、風速、湿度)の計測と制御を研究したいと考えています。
- 温室、畜舎、流通、貯蔵施設
- 温暖化防止関連—化石燃料消費削減、バイオエネルギーの再生・活用、土壌を含む食料生産・管理での殺菌法の改善、等
- 学会の範囲は対象で規定すべきではなく、理念で規定すべきではないか。
- 学際領域が曖昧な今、これと絞らず関連する物は何でも取り込むべき。特に環境とエネルギーなどは、農業施設とは直接結びつかないまでも、いろいろな形で影響を及ぼす領域なので取り組む価値有り。
- 乾燥調製施設、園芸施設、工場的栽培施設における生産技術及びそれらの施設内での作物生育環境調節技術
- 関連施設・設備と資材など
- 計測・検査技術など(センサー・非破壊検査)
- 現場へ直結する施設に関する技術全般
- 工場的栽培技術
- 工場的栽培施設園芸施設の環境制御コンピューターの利用技術など(計測と制御・農業情報・画像処理)
- 広義の食料生産施設
- 最も相応しいものは規定できません。関連づけられるものはすべて相応しいと思います。もともと対象が幅広いので、今後もさらに広げればよいと思います。
- 施設の設計および構造等
- 施設関係
- 施設全般だが、その性能向上に寄与するような技術の研究も含まれるべきだと思う。
- 集荷・出荷施設
- 省エネ(CO₂排出)対策、エネルギー問題
- 上記で良いと思います。
- 上記にあるような研究対象項目でよい
- 上記各項目
- 上記分野のうち、これまで農業施設学会が最も得意としていた分野(畜産施設、貯蔵加工、精米施設など)を引き続いて強化するとともに、エネルギー開発施設、新素材の利用技術分野などを積極的に取り入れる。

- 上記問3と同じ
- 食料（海産物・漁業も含む）生産・管理全般に関わる施設技術
- 水利用に関する技術と成果及び品質
- 生物資源の有効利用技術
- 選果、予冷、貯蔵
- 選果包装施設
- 選別包装施設、共同乾燥施設、貯蔵・貯留施設、園芸作物栽培施設、畜産施設
- 畜産関連施設に関する技術、米麦関連施設に関する技術、園芸関連施設に関する技術、流通関連の技術
- 畜産施設
- 畜産施設・園芸施設・貯蔵施設
- 貯蔵、加工施設
- 同問3
- 農業にかかわる生産・流通・利用施設に関する研究
- 農業に関する施設の設計技術、施工技術、管理技術、流用技術、解体技術、普及技術の研究と開発
- 農業の工業化施設
- 農業施設における環境計測と制御
- 農業施設にからむものであれば畜舎など建物の環境制御を中心とした研究を対象とする(もちろん1対象ではある)。
- 農業施設に関連するすべての研究
- 農業施設の設計、施工、利用に関する研究
- 農業生産・流通システムエネルギー・環境問題
- 農業生産施設・ポストハーベスト処理施設に関する研究
- 農作物生産施設全般，農村計画など
- 農産物の栽培から流通までの過程で，施設に関する工学的問題
- 農産物の生産、選別・包装、加工、流通関連施設
- 農産物の生産から食卓に至る過程に必要な全ての施設に関連する技術。今後、海外をフィールドとする施設に関する研究は重要と考える。
- 農産物の品質管理技術特に「穀類」の乾燥調製技術と加工技術と製品の調理特性など
- 農産物流通・加工施設
- 農畜産物や食品を生産加工貯蔵輸送するための施設と技術
- 農林畜産物等の生産、流通、加工、消費、廃棄に関わる施設
- 糞尿処理利用施設、養牛施設、養豚施設、養鶏施設、衛生管理技術
- 予冷、貯蔵施設、一次加工施設
- 予冷貯蔵施設，画像処理，畜産施設，栽培施設，環境制御

4. 学会について

表 4-1 問 5 学会の活性は高いと思いますか

	回答数	比率
高い	15	11.03%
同程度	61	44.85%
低い	22	16.18%
保留	38	27.94%

表 4-2 問 6 学会活動は学術や技術開発に貢献していると思いますか

	回答数	比率
非常に貢献している	14	10.29%
ある程度貢献している	91	66.91%
あまり貢献していない	11	8.09%
保留	20	14.71%

表 4-3 問 7 本学会は会員獲得に熱心であると思いますか

	回答数	比率
熱心である	7	5.15%
ある程度熱心である	38	27.94%
あまり熱心でない	61	44.85%
保留	30	22.06%

学会活動については他学会と比べて同程度あるいは高いとの回答が 5 割以上,また学会活動が社会的に貢献しているとの回答が 8 割近くある反面,会員獲得についてあまり熱心でないとの回答が 4 割強であった。

表 4-4 問 8 本学会の現状について最も近いと思われるのは次のどれだと思いますか

	回答数	比率
研究のみが行われている	11	8.09%
研究が中心だが,現場に近い活動も行われている	69	50.74%
研究と現場に近い活動が同等に行われている	46	33.82%
現場に近い活動が中心だが,研究も行われている	9	6.62%
現場に近い活動のみが行われている	1	0.74%

表 4-5 問 9 本学会が将来的に目指すべきは次のどれだと思いますか

	回答数	比率
原則的に研究のみ	0	0.00%
研究を中心とし,現場に近い活動も行う	47	34.56%
研究と現場に近い活動を同等に行う	69	50.74%
現場に近い活動を中心とし,研究も行う	17	12.50%
原則的に現場に近い活動のみ	3	2.21%

現状は少し研究センターであるが,将来的にはもう少し現場に近い活動に取り組んで研究と同等に行うべきと考える回答者の割合が高かった。

表 4-6 問 10 学会の名称について

	回答数	比率
今のままでよい	79	58.09%
変更すべき	21	15.44%
保留	36	26.47%

学会の名称は6割弱の回答者が現状のままでよいと考えている。変更すべきと回答したのは2割弱であった。名称案としては以下のような意見があった。

- アグロシステム学会
- バイオプロセス工学会
- 学会が統合するなら話は別
- 現状では良い案はないが、英文から先に考えては？
- 食料生産工学会
- 生物資源工学会
- 生物資源産業学会など、より広い産業分野を連想させる名称
- 生物生産
- 生物生産工学会
- 他の学会と統合し、農業・生物工学学会とする。
- 日本農業施設学会
- 農業環境工学学会

なお学会全体への意見ではあるが「今、NEDOの産業技術研究助成事業の申請書類を書いています。その中で所属学会について申告する必要がありますが、公募要領の添付文書中の学会名一覧に本会の名前はありません。本会の対象とする学問領域から考えれば、本会の名前がリストに挙がっていて当然であると思います」との意見もあった。

表 4-7 問 12 関連他学会との協力関係について

	回答数	比率
積極的に協力し合うべきである	83	61.03%
ほどほどに協力し合えばよい	44	32.35%
あまり協力し合わないほうがよい	1	0.74%
協力し合うべきでない	0	0.00%
保留	8	5.88%

関連学会と積極的に協力しあうべきとの回答は6割以上であり、協力し合わないほうが良いとの回答はほぼ皆無であった。回答した会員は、何らかの形で関連学会との連携が必要であると考えている。

表 4-8 問 13 将来的な学会の形態について

	回答数	比率
合併して部会制	51	37.50%
合同で学会誌を発行するような連合形態	14	10.29%
合同学会を開催する程度の連携形態	39	28.68%
このまま単独がよい	17	12.50%
保留	15	11.03%

学会の将来的な形態については何らかの形での連携が必要との回答が 8 割弱を占めている。特に、他学会と合併して部会制となることを望む回答者は 4 割弱であった。部会制以外の形態について、主に活動している学会、所属、年代別に集計すると、学会別では施設学会が母体の回答者は比較的現状のような合同大会開催程度の連携を、所属別では研究機関に所属する回答者は比較的単独での、また年代別では年代があがるにつれて合同大会開催程度の連携を望む割合が高くなっていった。

図 4-8.1 主に活動している学会別

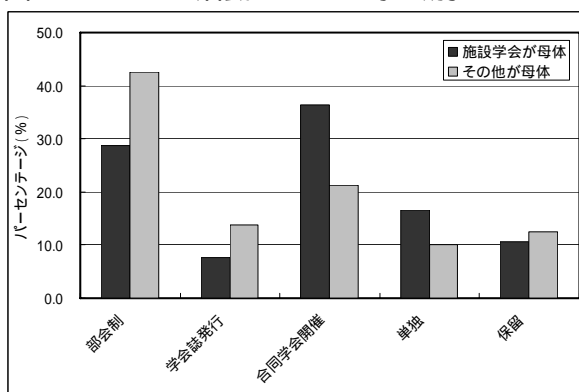


図 4-8.2 所属別

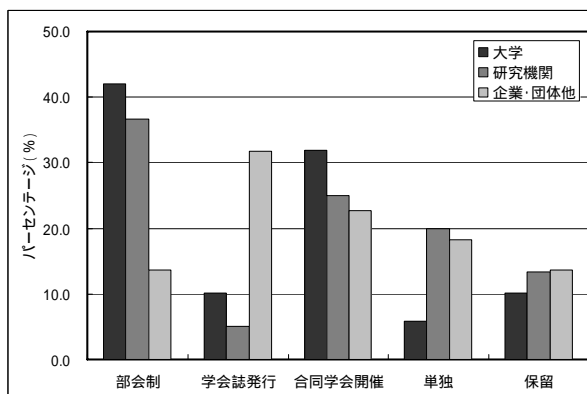
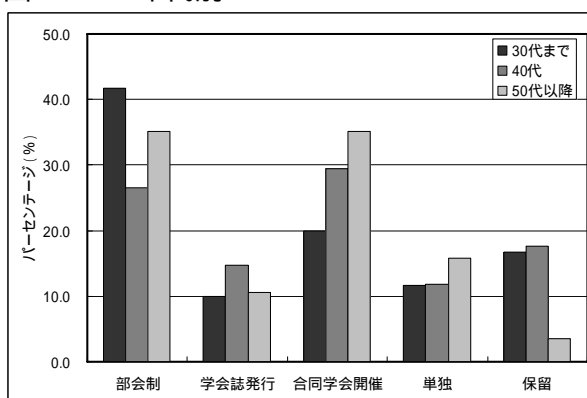


図 4-8.3 年代別



5. 学会大会について

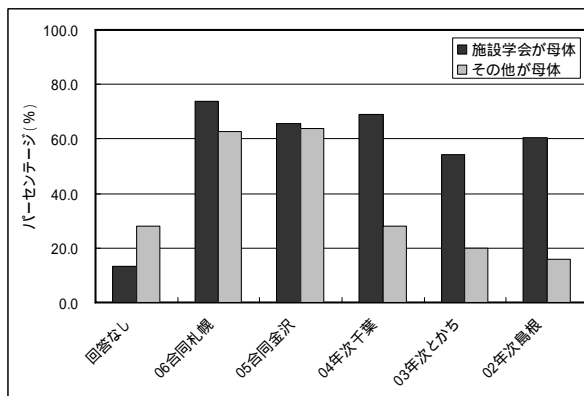
表 5-1 問 14 過去 5 年間の大会のうち，参加された大会をすべてお選びください

	回答数	比率
回答なし	27	19.85%
2006 年度 札幌合同大会	90	66.18%
2005 年度 金沢合同大会	86	63.24%
2004 年度 年次大会	61	44.85%
2003 年度 年次大会	46	33.82%
2002 年度 年次大会	47	34.56%

表 5-2 問 15 2007 年度の合同大会（農工大合同大会）には参加しますか

	回答数	比率
参加する	91	66.91%
参加しない	17	12.50%
未定	28	20.59%

図 5-2.1 主に活動している学会別



学会大会については，合同大会として開催したほうがより多くの会員の参加が見込まれる．主として活動している学会別に集計すると，施設学会を主な活動の母体としている回答者は 6 割前後が各年参加しているのに対し，その他の学会を活動の母体としている回答者は単独開催の年次大会への参加率が 2 割前後であった．

表 5-3 問 16 合同大会として学会大会が開催される場合，その発表プログラムは

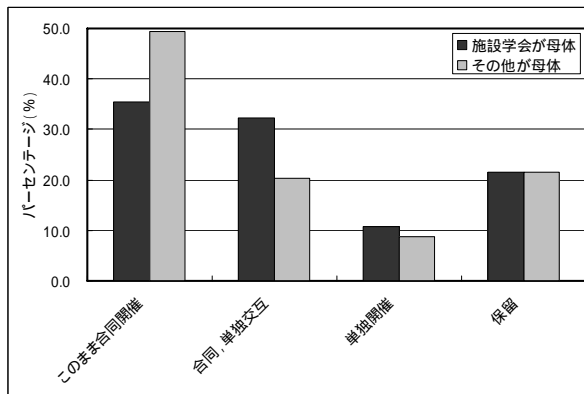
	回答数	比率
学会別がよい	25	18.38%
共通テーマ別がよい	80	58.82%
どちらでもよい	16	11.76%
保留	15	11.03%

プログラムに関しては，半数以上がテーマ別の編成を望んでいる．これらの要望は大会実行委員会に伝える必要がある．

表 5-4 問 17 学会大会の開催形態について

	回答数	比率
このまま今後も合同開催を続けるべき	60	44.12%
合同開催, 単独開催を交互に行うべき	35	25.74%
できるだけ単独開催するべき	12	8.82%
保留	29	21.32%

図 5-4.1 主に活動している学会別



4 割強の会員が合同開催継続を希望している。交互開催は 2 割であり、単独開催を望む回答者は 1 割以下であった。活動学会別に集計すると、合同開催継続希望の回答者は、施設学会が活動の母体の場合は 3 割強であるが、他学会が母体の場合はほぼ 5 割の回答者が合同大会を希望している。

6. 学会誌について

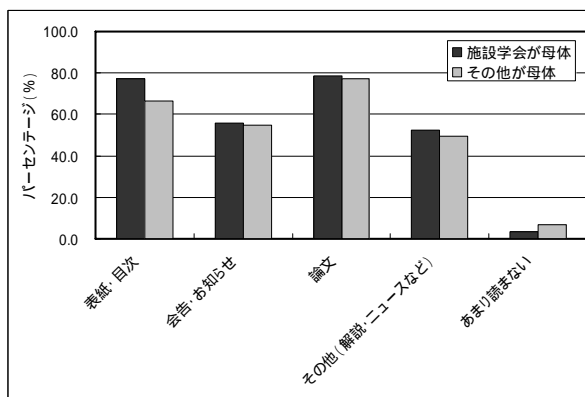
表 6-1 問 18 「農業施設」の中で目を通す範囲について

	回答数	比率
表紙・目次	95	69.85%
会告・お知らせ	73	53.68%
論文	104	76.47%
その他(解説・ニュースなど)	67	49.26%
どれもあまり読まない	5	3.68%

表 6-2 問 19 「農業施設」に記載された論文・記事の引用・利用について

	回答数	比率
多い	8	5.88%
時々ある	75	55.15%
ほとんどない	53	38.97%

図 6-1.1 主に活動している学会別



5 割以上の回答者が学会誌のほぼすべてに目を通すと回答する反面，論文や記事の引用がほとんどないとの回答が 4 割近くあった。目を通す範囲については，所属学会別に見てもそれほど違いはなかった。

表 6-3 問 20 「農業施設」を投稿先と考えることが

	回答数	比率
よくある	35	25.74%
時々ある	46	33.82%
あまりない	39	28.68%
保留	16	11.76%

表 6-4 問 21 上記質問で「あまりない」の場合の主な投稿先

	回答数	比率
回答なし	90	66.18%
農業環境工学に関連する国内誌	19	13.97%
農業環境工学に関連する国際誌	11	8.09%
その他の学術誌	29	21.32%

表 6-5 問 22 学会誌「農業施設」の査読について

	回答数	比率
厳しい	4	2.94%
普通	63	46.32%
それほど厳しくない	12	8.82%
厳しくない	3	2.21%
保留	54	39.71%

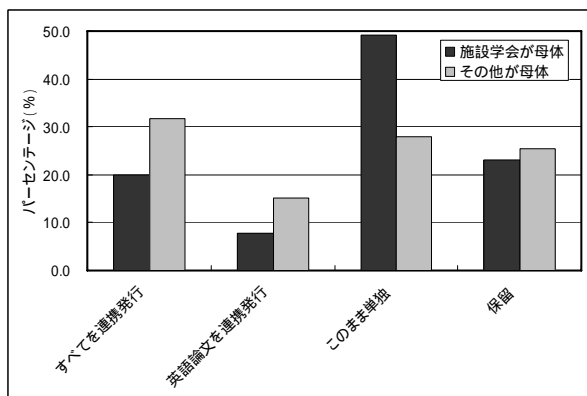
6 割弱の回答者が農業施設を投稿先として考えることがあるとしている。投稿先と考えることがあまりないと回答した回答者の投稿先は関連学会誌とその他の雑誌が半々である。なお、本会への意見として「色々な研究内容が含まれ、ポテンシャル自体は高いと思うが、ボリュームが小さい。そのことがなかなか引用しにくい理由でもある」との記述もある。何らかの対応が必要であると考え。

査読については 5 割弱の回答者が普通であると考えている。中には「査読者はその論文を農業施設学会誌に載せることを前提に、どのようにしたら載せることができるのか、まずいのならどのようにすればよいか助言できるように心がけて欲しい」との意見もあった。

表 6-6 問 23 学会誌「農業施設」の将来的な発行形態について

	回答数	比率
すべての論文を連携して発行	36	26.47%
英語論文のみを連携して発行	15	11.03%
このまま単独で発行	52	38.24%
保留	33	24.26%

図 6-6.1 主に活動している学会別



大体 4 割弱の割合で単独発行と連携発行に回答が分かれた。所属学会別に見ると、施設学会を母体としている回答者は 5 割程度がこのまま単独の発行を希望しているのに比較し、他の学会を母体としている回答者は連携発行を希望する割合が比較的高かった。

7. 学会に対する自由意見

- グローバルな食料・環境・エネルギー問題にも対処する姿勢が重要と考えます。
- ビジネスと関わるような研究テーマや対象を積極的に応援すべき。
- より現場に近い(県の試験場など)研究者が参加・活動できる学会として独自性を発揮し、存続した方が良いと思います。
- 英語のみの学術誌を刊行してほしい。
- 会員にとって魅力ある学会にするためには、1. HPの充実、2. 学会誌の充実、3. 例会、シンポ、セミナー等の充実、4. 書籍等の充実などを戦略的、経営的、総合的に考える委員会が必要である
- 会報はネット配信にすべきだと思う。
- 学会統合のデメリット・メリット両方有ると思いますが他関連学会の動向を見ながら方向性は決めて欲しい。
- 期待しておりますので、宜しくお願い致します。
- 経費を考えると学会誌はCDが良いのでは。
- 更なる活性化、とくに会員増をはかる
- 今、NEDOの産業技術研究助成事業の申請書類を書いています。その中で所属学会について申告する必要がありますが、公募要領の添付文書中の学会名一覧に本会の名前はありませぬ。本会の対象とする学問領域から考えれば、本会の名前がリストに挙がっていて当然であると思います。
- 査読論文の査読者は、その論文を農業施設学会誌に載せることを前提に、どのようにしたら載せることができるのか、まずいのならどのようにすればよいか助言できるように心がけて欲しい。
- 最近、生物環境調節学会と植物工場学会が統合されましたが、このケースは両学会とも共通の研究領域が多く、統合には賛同します。場合によっては、農業気象学会との統合も、一つの方向だと思えます。一方、農業施設学会の場合は、産・官・学の会員のバランスもよく、また、学
- 財政状況が厳しいかと思うので、機会学会等との合併が妥当だと思う。また、インパクトファクターも低く、発行部数も少ないと思うので、引用されることも他の学術雑誌に比べると低いのでは。
- 私は地球環境の未来を考えると、「食料の問題は大きな問題となる。そのためにどのような方策を考えていくべきか。」ということで参加しているので知識を深めえるために参加させていただいている。まだ、学会についてはよくわからない。
- 将来、有望となる学生会員の確保も検討してもらいたい。バイオマス関連の情報を積極的に学会を通じて流して欲しい。
- 色々な研究内容が含まれ、ポテンシャル自体は高いと思うが、ボリュームが小さい。そのことがなかなか引用しにくい(問19)理由でもある。
- 早急に関連する学会との合併を検討すべき
- 他の農業環境工学系の学会との違いは何か? 農業施設学会のオリジナルは何か? 学会の運営に携わる人々が惰性で行っているのならば、学会の存続が危ぶまれる。
- 大学における農業工学(農業機械)系への志願者減、学科の再編、教員の削減といった厳しい現状を踏まえ、新しい学術分野への変革を目標にした積極的な対応を期待します。
- 地域の会員(とくに若手)にも学会活動の一翼を担ってもらえるよう、委員会幹事や委員、シンポジウム・セミナーの実行委員などの人選に当たって配慮が必要。
- 投稿規定が煩雑
- 農業関係とは関係が浅かったのですが、バイオマスや廃棄物利用に関する研究から本

学会に共著として論文を投稿させて頂いたものです。異分野や境界領域についての発表がしやすくなるとよいと考えます。

- 農業機械学会，農作業学会とで1つの学会にすることを，再び考えてもいいのではないのでしょうか。
- 農業機械学会と合併するが，農業施設部会として独立して学会誌を発行する。
- 農業機械学会と施設学会は合併してはどうか
- 農業機械学会と農業施設学会が強固に連携することを希望いたします。
- 農業機械学会にも所属している会員にとって、合同大会を開催する場合、どちらか一方の学会から退会を考えている人は多いと思います。
- 農業機械学会等々との合併を考え、ASBAのような組織への変化が望ましいと昔から考えていました。
- 農業施設学からかけ離れた要素技術の研究が多くなっています。「農業施設学」の原点に戻った研究基盤の構築を。
- 本学会の活動には、中央と地方間の地域差が大きい。各地域の拠点を軸に活動を高めることで、学会全体が活性化されると思う。学会の対象領域を明確にすべき。民間市場での動きにもっと敏感に反応して、カバーする領域を広げたらよいと思う。